

アジュール舞子ガイドマップ

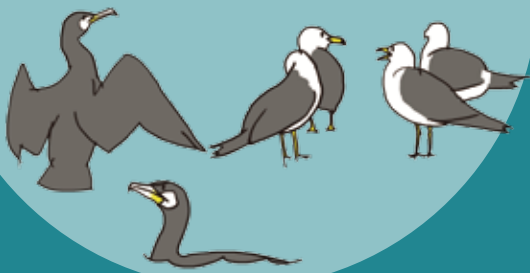
アジュール舞子は海がある神戸でただ一つの公園です。昔の白い砂浜(すなはま)と青いマツの風景をふたたびつくり、大きな岩で、いきものすみかになる磯(いそ)もつくられています。塩分が多く、かわいた海岸の環境(かんきょう)に適應(てきおう)した植物や、海にいる野鳥が見られます。



■波止(はと)

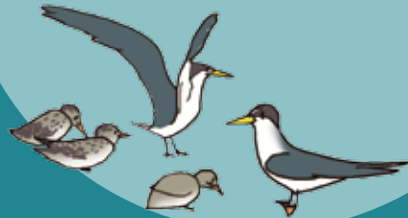
海鳥たちが休みます

秋から冬にカモメもわたってきます
(ウミネコ、カワウ、アオサギなど)



■砂浜(すなはま)

チドリの仲間のエサをとります
ヨアジサシが巣をつくります
(ヨアジサシ、シロチドリなど)



 <p>コウボウムギ</p>	<p>●コウボウムギ</p> <p>特長:春になると、背(せ)の低い麦のような穂(ほ)を出します。根は地下でつながっています。</p> <p>観察するには:砂浜(すなはま)で見られます。葉はかれたあとも、曲がりくねったまま、残ります。</p>	 <p>ハマユウ</p>	<p>●ハマユウ</p> <p>特長:あつい葉が、重なり合いながら広がります。太い根でからだをささえます。夏になると、大きな白い花をさかせます。</p> <p>観察するには:マリンピア側の砂浜(すなはま)で多く見られます。</p>	 <p>ウミネコ</p>	<p>●ウミネコ</p> <p>特長:カモメの仲間なのにネコとつくのは「ミャーオ」と鳴くからでしょうか。</p> <p>観察するには:一年中、波止にむれて休んでいるところを見られます。</p>
<p>●コウボウシバ</p> <p>特長:5月ごろ、てっぺんにフワフワしたオスの穂(ほ)、ツブツブがハッキリしたメスの穂をだします。</p> <p>観察するには:砂浜(すなはま)で見られます。コウボウムギよりひと回り小さいです。</p>	 <p>コウボウシバ</p>	<p>●ハマボウフウ</p> <p>特長:春にでる若葉(わかば)は、山菜として食べられます。夏にカリフラワーのような白い花をさかせます。</p> <p>観察するには:マリンピア側の砂浜(すなはま)で多く見られます。赤い茎(くき)が食べごろです。</p>	 <p>ハマボウフウ</p>	<p>●コアジサシ</p> <p>特長:スマートな体の小さな鳥で、飛ぶ力はばつぐんです。</p> <p>観察するには:5,6月ごろに、砂浜(すなはま)に巣をつくり、海でつかまえた魚をヒナへ運びます。近づかずに遠くから観察しましょう。</p>	 <p>小魚をヒナへ運ぶコアジサシ</p>
 <p>ハマヒルガオ</p>	<p>●ハマヒルガオ</p> <p>特長:春になると丸い葉を広げ、砂浜(すなはま)の上にツルをのばします。砂浜をおおくと、ラッパ形の花をつぎつぎにさかせます。</p> <p>観察するには:砂浜でふつうに見られます。葉はアサガオとちがい丸い形をしています。</p>	 <p>クロマツの松ぼっくり</p>	<p>●クロマツ</p> <p>特長:クロマツは潮(しお)風に強く、一番海に近いところで育つ木です。アジュール舞子は「白砂青松(はくさせいしょう)」を目指して、たくさんクロマツが植えられています。</p> <p>観察するには:しばふ広場で見られます。</p>	 <p>カワウ</p>	<p>●カワウ</p> <p>特長:黒い羽とヘビのような長い首をもつ鳥です。泳ぎが得意な鳥で、海にもぐって魚をとります。</p> <p>観察するには:波止でぬれた羽をかわかしたり、休んでいるところを見られます。</p>
<p>●ハマゴウ</p> <p>特長:葉のうらに小さい毛が生えていて、白く見えます。夏になると、小さな青い花をたくさんさかせます。</p> <p>観察するには:マリンピア側の砂浜(すなはま)で、かたまりになって見られます。</p>	 <p>ハマゴウ</p>	<p>●シロチドリ</p> <p>特長:水辺で見られる小さな鳥です。首の横から後ろにかけて黒い帯があります。</p> <p>観察するには:波打ちぎわを数羽でちょこまかと歩きまわり、小さいきものをさがしているところを見られます。</p>	 <p>波打ちぎわのシロチドリ</p>	<p>●トビ</p> <p>特長:大きなタカで、尾羽(おばね)に三角のへこみが入ります。おもに死んだ魚や動物を食べています。</p> <p>観察するには:よく上空を飛んでいます。鳴き声は「ピーヒョロロロ」</p>	 <p>魚を運ぶトビ</p>

アジュール舞子いきもの図鑑 (海の野鳥 / 浜の植物)

■しずんだ岩, テトラポット

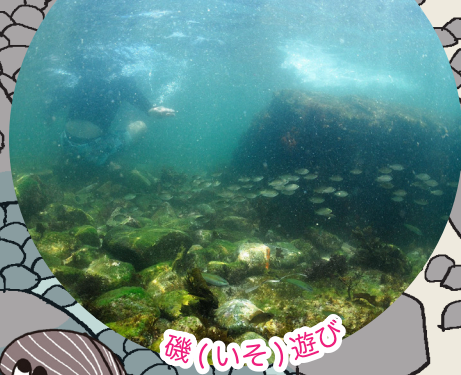
海の底にしずんだ岩やテトラポットは、魚たちのすみかになります。スズメダイやメバルのこども、ベラなど小さな魚がむれています。そして岩かげにはタコもかかれています。



シウシハギ(有毒)

イソガミの仲間

イソギンチャクの仲間



磯(いそ)遊び

ボラ

ヤドカリの仲間

スジハゼ

ミズクラゲ

アオリイカ

スズメダイの仲間
ベラの仲間

カタクチイワシ

カレイの仲間

■磯(いそ)

浅い岩場はカニとヤドカリの天国です。大きな岩には、イソギンチャクや貝もいます。

すこし深い石の浜(はま)では、ハゼの仲間やカサゴのこどもが見られます。ボラのむれがエサをあさりにくともあります。イワシのむれやアオリイカのこどもが見られることもあります。



クサフグ

■砂地(すなじ)

砂地の底にはアマモが生えています。注意深く見ていると、砂(すな)と同じ色をしたキスやカレイの仲間がいるかもしれません。



メバルのこども

アジュール舞子ガイドマップ(夏秋)

海開きしたアジュール舞子はたくさんの人でにぎわいます。ぬれてもいいかっこうで磯(いそ)のいきものを見にいきましょう。マスクをつけて海の中をのぞくと、砂浜(すなはま)からは見えないいきものを発見できるかもしれません。



●ヤドカリの仲間
 特長:貝がらを家にするエビの仲間です。
 観察するには:磯(いそ)の波打ちぎわや浅瀬(あさせ)にいます。感じられると貝の中に引っこんでしまいますが、静かにしていると、足をだして動きだします。

ホンヤドカリ



●ミズクラゲ
 特長:港のおくのよこれた海でも生きられるクラゲです。ユラユラとただよう動きは、なぜかいやされます。観察するには:波や風に流され、砂浜(すなはま)に打ち上げられていることもあります。

ミズクラゲ



●キュウセン
 特長:ベラの仲間で、むなびれで羽ばたくように泳ぎます。夜は砂(すな)にもぐってねむります。大きく成長すると、体が白から緑色に変わり、性別(せいべつ)もメスからオスへ変わります。

キュウセンのメス

●イソガニの仲間
 特長:磯(いそ)の波打ちぎわにふつうにいるカニです。甲羅(こうら)が平らなほうがヒライソガニです。観察するには:石をひっくり返して、さがしてみましょ。観察したあと石は元にもどしましょう。



イソガニ

●カタクチイワシ
 特長:夏になると大群(たいぐん)がやってきます。小さな魚で、大きな魚やイカに食べられてしまいます。観察するには:水面近くで何百匹(ひゃく)という銀色のむれを見ることができるともありません。

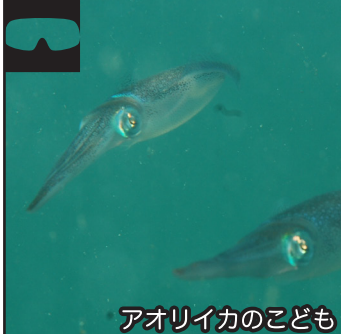


カタクチイワシ

●クサフグ
 特長:クサフグは皮や内蔵(ないぞう)に毒があるため、食べられていません。観察するには:夏のはじめの大潮(おおしお)に、波打ちぎわでたまごを産みます。魚をおどかさなように、岩かげから静かに観察しましょう。



たまごを産むクサフグ



●アオリイカ
 特長:あたたかい海を好むイカで、夏のはじめにたまごを産みます。こどもたちは、夏から秋に浅い海で成長します。観察するには:海水浴シーズンは、波間にむれていたり、ロープやブイのかげにかくれていたりします。

アオリイカのこども



潮(しお)がひいたときのタデジマイソギンチャク

●イソギンチャクの仲間
 特長:岩にひっつき、近づきものを触手(しょくしゅ)でとらえます。観察するには:磯(いそ)の岩で見られます。潮(しお)が引くと丸くちぢみ、だんごのようになりますが、水につかると元の形にもどります。



イトヒキハゼとテッポウエビ

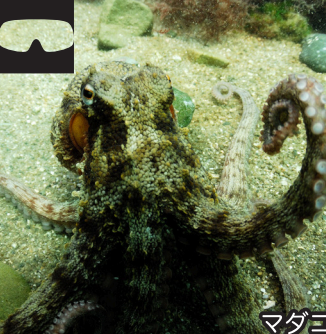
●イトヒキハゼ
 特長:小さなハゼの仲間です。危険(きけん)を感じるとエビに知らせるかわりに、エビのあなをかくれがにに使わせてもらう共生(きょうせい)関係をもつことが知られています。

●カサゴ
 特長:ガシラでおなじみ、コロンとした体が、かわいい魚です。食いしんぼうで、口に入るサイズのカニは飲みこんでしまいます。観察するには:こどもは1年中浅い磯(いそ)で見られます。



カサゴのこども

●マダコ
 特長:明石海峡(あかしかいきょう)名物(めいぶつ)といえば、タコですね。せまいところが大好きで、漁(りょう)では「たこぼ」をしずめ、そこに入ったタコをとります。観察するには:岩かげで見られるかもしれません。

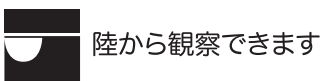


マダコ

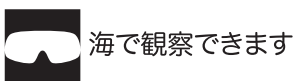
●ボラ
 特長:よごれた水に強い魚で、大きくなります。よく大きなむれをつくります。ときどき水面から連続ジャンプしますが、その理由はなぞです。観察するには:浅場で藻(も)を食べるすがたが、見られます。



エサをあさるボラ



陸から観察できます



海で観察できます

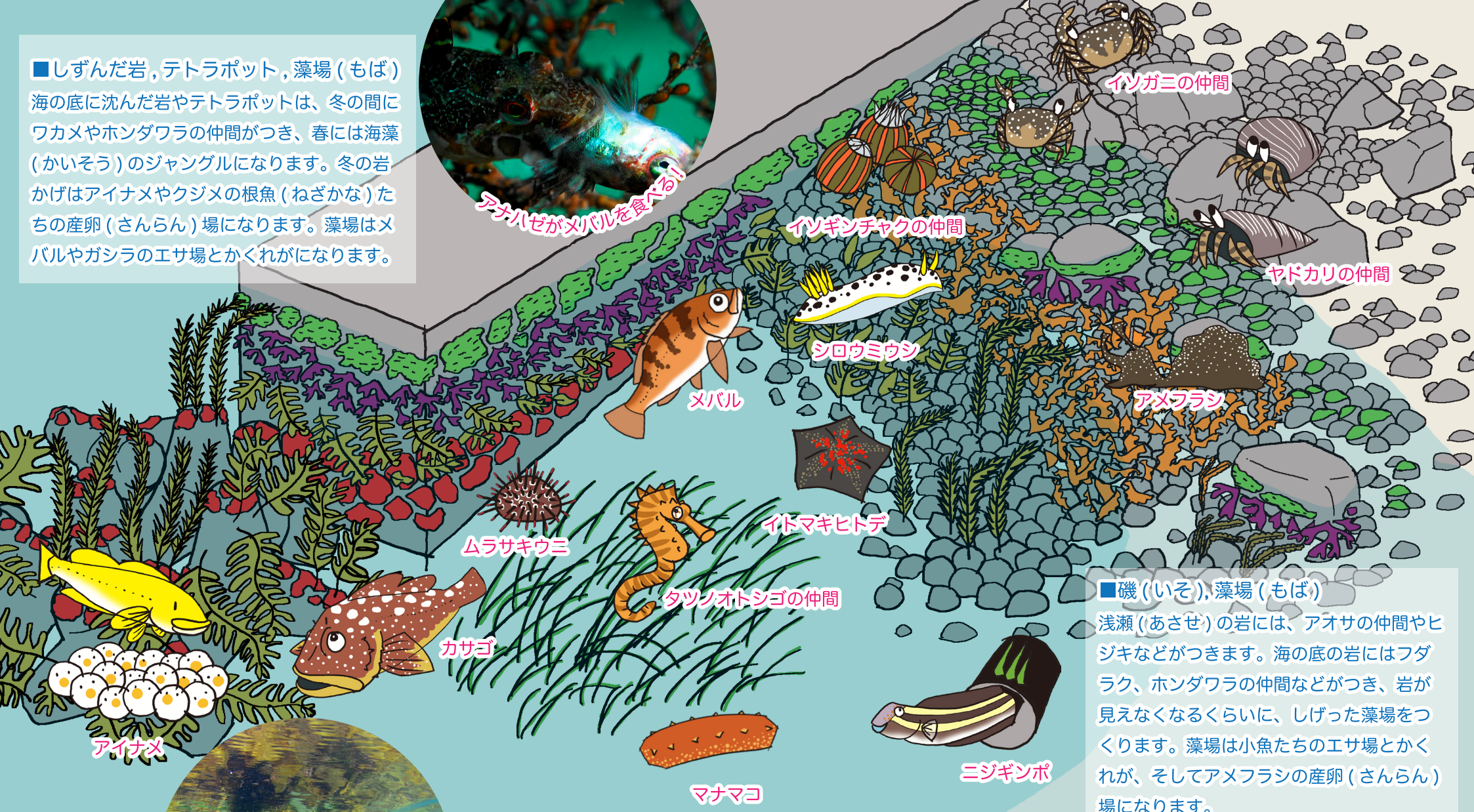
アジュール舞子いきもの図鑑 (海のいきもの / 夏秋)

撮影・協力 宮道成彦 小林令伊子

■しずんだ岩, テトラポット, 藻場 (もば)
 海の底に沈んだ岩やテトラポットは、冬の間にワカメやホンダワラの仲間がつき、春には海藻(かいそう)のジャングルになります。冬の岩かげはアイナメやクジメの根魚(ねざかな)たちの産卵(さんらん)場になります。藻場はメバルやガシラのエサ場とかがれがになります。



アマハゼがメバルを食べてる!



イソガミの仲間

イソギンチャクの仲間

ヤドカリの仲間

メバル

シロウミウシ

アメフラシ

ムラサキウミ

イトマキヒトデ

タツノオトシゴの仲間

カサゴ

アイナメ

マナマコ

ニジギンポ

■磯(いそ), 藻場(もば)
 浅瀬(あさせ)の岩には、アオサの仲間やヒジキなどがつきます。海の底の岩にはフダラク、ホンダワラの仲間などがつき、岩が見えなくなるくらいに、しげった藻場をつくります。藻場は小魚たちのエサ場とかがれが、そしてアメフラシの産卵(さんらん)場になります。

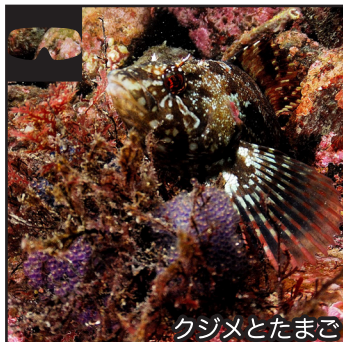


色とりどりの海

■砂地(すなじ), アマモ場
 砂地の底にはアマモが根をはり、草原のような藻場(もば)をつくります。メバルなど魚たちのエサ場になります。タツノオトシゴの仲間が、アマモにからみついたりします。

アジュール舞子ガイドマップ(冬春)

山の木々が葉を落としている冬の海の中は、色とりどりの海藻(かいそう)がしげる季節です。魚たちがこどもを産み、そのこどもたちは、海藻のジャングルをすみかにして大きくなります。海の中の季節は、陸上よりもひとつ先にいっているようです。



●クジメ

特長:やや小型の魚で、海底の岩かけをすみかにします。冬にたまごを産み、親が守ります。アジュール舞子で写真をとっていると、10~11月にかけてクジメの産卵(さんらん)が見られました。

クジメとたまご



空きカンからでてきたニジギンポ

●ニジギンポ

特長:とぼけた顔をしたかわいい魚です。もともとは、まき貝にたまごを産みますが、海の底にしずんだ空きカンを使うこともあります。ゴミはくなくしたいですね。

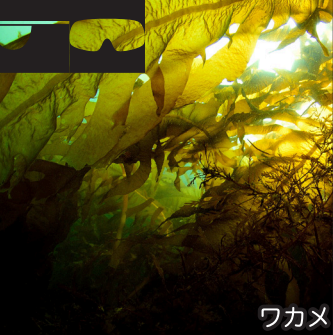


アメフラシとたまご

●アメフラシ

特長:貝がらをもたない貝の仲間で、海藻(かいそう)を食べます。刺激(しげき)するとむらさき色の液(えき)をだします。春には黄色いそうめんのようなたまごを産みます。観察するには:海藻が生えた磯(いそ)で見られます。

●ワカメ
特長:おもしろい貝でおなじみのワカメです。ゆでられる前のワカメは茶色で、ゆでると緑色に変わります。観察するには:波止のかべのすこし深いところに生えています。



ワカメ

●ウミウシの仲間
特長:ウミウシは貝がらもなくした貝の仲間です。さまざまな形やカラフルなもようがダイバーに人気です。アジュール舞子でも写真のウミウシのほか、シロウミウシ、ヒロウミウシ、ミヤコウミウシなどのウミウシが見つかっています。



サクラミノウミウシ

●ナマコの仲間
特長:イモムシのようで見た目は不気味ですが、海底の有機物(ゆうきぶつ)を食べて、海をきれいにしてくれるいきものです。観察するには:岩場や砂地(すなじ)の海底でふつうに見られます。

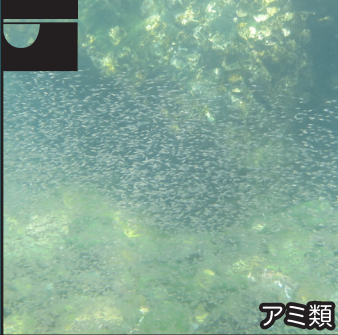


マナマコ



アマモ

●アマモ
特長:アマモは陸から海にもどった植物で、砂地(すなじ)の海底に根をはって草原をつくります。観察するには:すこし深い砂地の海底に生えています。海があれた次の日、打ち上げられていることがあります。



アミ類

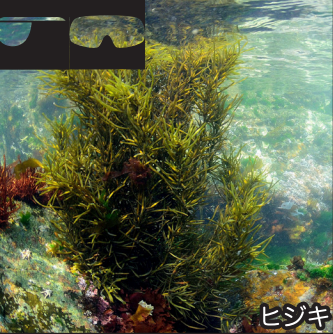
●アミ類
特長:エビやカニの仲間の幼生(ようせい)です。いきものがへる冬、小魚にとって大事なエサになります。観察するには:岩かげなど流れの弱いところに集まっています。



メバル

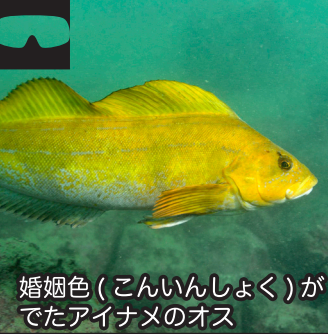
●メバル
特長:大きな目がかわいい魚です。体をななめにしてストップし、上を流れてくるエサを待ちふせします。観察するには:浅い岩場や藻場(もば)で、むれているメバルのこどもを見られます。

●ヒジキ
特長:食べられる海藻(かいそう)です。海面に向かって、ほうき形にのびます。海藻のしげみには、ワレカラやヨコエビなどがすみつきます。観察するには:浅い磯(いそ)の岩に生えています。



ヒジキ

●アイナメ
特長:代表的な根魚(ねざかな)で、大きくなります。産卵時期(さんらんじき)の冬、オスの体が、地味な茶色から、かがやくような黄金色にかかります。すこし深い海底の岩かげにいます。

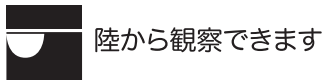


婚姻色(こんいんしょく)がでたアイナメのオス

●タツノオトシゴの仲間
特長:魚っぽくない体で、すばやく泳ぐことが苦手です。クルクルとしゃぼを藻(も)にまきつけて、潮(しお)に流されないようにします。オスにたまごを入れるふくろがあり、子育てをすることが知られています。



アマモにしゃぼをからめるタツノオトシゴの仲間



陸から観察できます



海で観察できます

アジュール舞子いきもの図鑑 (海のいきもの / 冬春)

撮影・協力 宮道成彦 小林令伊子

